

# 山雲水月

発行責任者 仁叟寺 住職 渡辺啓司

## -お知らせ-

来る十二月三十一日の大晦日夜から元旦未明にかけて、毎年恒例の「除夜会」を行います。一年の厄を落とし福を呼ぶこの行事に是非お越し下さい。

## 平成16年 仁叟寺年間行事予定

- 1/1 年頭祈禱
  - 1/3~1/4 年始挨拶
  - 2/3 大節分会
  - 2/15 涅槃会
  - 3/14 般若会/大施食会法要
  - 3月中旬 筆供養法要
  - 3/18~3/24 春季彼岸会
  - 4/8 花祭り
  - 7/13~7/16 京浜地区盂蘭盆会
  - 7/27~7/28 子ども禅の集い
  - 8/13~8/16 盂蘭盆会
  - 9/20~9/26 秋季彼岸会
  - 12/8 成道会
  - 12/31 除夜会
- 毎週土・日曜日  
書道教室  
毎週水曜日  
定期坐禅会  
隔週水曜日  
華道教室・梅花講稽古

## 寺本サンコー会長一周忌厳修ごんしゅう

去る9月10日(金)、当寺さいこうこもんだんかの最高顧問檀家であり、さいちゅうこうかいぎ再中興開基の故寺本欣正翁(戒名、龍昇院殿欣光正悦大居士位)の正当の一周忌の追善法要が、仁叟寺本しょうごん堂に於いて荘厳に執り行われしました。中曽根康弘元総理大臣はじめ小寺群馬県知事、中曽根弘文参議院じゅうちん議員など政財界の重鎮は、はじめ約350名を超える多くの方々が生焼香に訪れました。改めてサンコーグループ会長、故寺本欣正翁の生前の徳の大きさが偲ばれた法要でした。



↑ 法話を行う住職

尚、会長亡き後は喪主である寺本欣一社長がサンコーグループの跡を継ぎ堅実な経営をしております。



↑ 左) 小寺群馬県知事  
中央) 中曽根元内閣総理大臣  
右) 渡辺仁叟寺東堂

## 故 寺本欣正翁 略歴

大正4年2月3日生～  
平成15年9月10日寂  
サンコーグループ会長  
高崎市市議会議員  
全国街路灯事業協会会長  
全国広告美術連合理事  
県ゴルフ協会理事長  
県自衛隊協力会理事  
群馬県功労者表彰  
高崎市特別功労者  
など要職を歴任

## 寺史編纂室通信特集-10-



じんしゅじ

### ↑ 奥平氏ゆかりの富岡市神守寺本堂前にて

監修者である早稲田大学教授の外園豊基先生が過密なスケジュールを縫って来寺。寺史の途中経過とこれからの展望に関してのアドバイスを賜りました。寺史編纂委員会が結成され3年近い月日が経ちましたが、まだ原稿集めを続けており、完成までは今しばらくの時間がかかりそうな状況です。しかし、外園教授が言うには委員の力を結集すれば早期に完成することが可能だと言われておりました。

委員一同気合を入れてより良い寺史を作ろうと考えております。檀信徒の皆様におかれましても、総代会及び役員会で決定した通りですが、寺史勸募金のご協力をお願い申し上げます。



→ 外園教授よりの貴重な助言を頂く

矢島卓、久保信太郎、長谷川寛見各委員と仁叟寺と縁のある西毛の寺院を訪問して参りました。調査した寺院は、最興寺、神守寺、向陽寺、福寿寺の各寺院です。

特に、神守寺は仁叟寺の外護者の一人である奥平亀姫（徳川家康の長女、奥平信昌の正室）の建てたお寺と伝えられております。位牌も遺されており、仁叟寺のそれとも異なっております。

また向陽寺では、お寺に遺されている膨大な量の古文書を読ませていただきました。仁叟寺の筆頭末寺（仁叟寺三世莊山道巖大和尚が開山）ということもあり、仁叟寺関連の古文書が多くありました。

全体的にこれからの寺史を作成するにあたり有意義な取材ができたことを報告申し上げます。

最後に、ご協力いただいた、御寺院さまにはご多忙のところ、誠にありがとうございました。



仁叟寺の掛軸などの書画の調査を矢島卓、小林譲、長谷川寛見各委員の協力のもと、行いました。調査本数は300本を超えるほど大量でした。デジカメで写真を撮影したり、寸法はじめ銘や作者などの調査をし目録を作成。後世までしっかりとした仁叟寺什物を正確な情報で遺せれば良いかと思ひます。

## 仁叟寺探索-8-



← 長谷川淡路守墓碑

今回の探索では、当寺外護者の一人長谷川淡路守の墓碑を紹介いたします。長谷川淡路守は、江戸初期の旗本で吉井町に領地を所有。徳川將軍家に仕え幕府の要職を歴任いたしました。ちなみに「鬼平」で有名な長谷川平蔵はその子孫にあたります。また隣に父、長谷川讚岐守の墓碑も建立してあります。長谷川家はその後、江戸屋敷に住むため仁叟寺に葬られているのは上記二霊しかありませんが、江戸後期まで長谷川家の子孫が付届を当寺まで行っていたという記録が古文書に残っております。戒名は淡路守が長松院殿惠林了智大居士位で寛永16年（1639年）3月8日寂。讚岐守は戒名、祖庭院殿趙英宗伯大居士位で慶長13年（1608年）2月7日寂となっております。

## 第23回子ども禅の集い報告

今年で第23回目を迎えた仁叟寺子ども坐禅会が、7月27日～28日に掛けて行われました。対象学年は小学校3年～6年生で、地元多胡吉井各小学校はじめ、高崎市の児童21名が参加。一泊二日の日程で、お寺の生活を集団で過ごしました。坐禅はもちろんのこと、朝のお勤めや作務（掃除のこと）、スイカ割りや花火大会、度胸試しなどもあり、夏休みのいい思い出となったのではないのでしょうか？写真は総代長の金子明先生が粘土の焼物作製を指導している様子です。

総代長さんはじめ、スイカ提供者の吉田宇四郎さん、協賛企業の東京精密管、タルヤ建設、ニワタ保険事務所、放光各社の皆様にはお世話になりました。紙面を借りて御礼申し上げます。



↑ 金子明総代長さん指導のもと粘土を使っでの焼物を製作

## 村上鬼城資料館調査

「山雲水月」正月号で紹介した村上鬼城句碑建立の記事を見て、鬼城の子孫で同資料館館長である村上信氏が来寺。当寺に遺されている鬼城句の掛軸二本を調査。併せて、新たに建立された句碑も見て境内を散策いたしました。金子明総代長とも交流のある同氏は、鬼城句碑に感激をしておりました。

村上鬼城資料館は高崎市並榎町にあり、群馬の生んだ著名な俳人、村上鬼城の母屋を改築して資料館にしているそうです。縁を結ぶことを結縁と申しますが、寺に遺されていた掛軸から始まった御縁ということでもあります。



↑ 村上鬼城の子孫であり、資料館館長の村上信氏と掛軸を調査

てつどう

## 住職 初孫『哲道』誕生



去る7月26日午前6時、藤沢おおほ市大庭の吉田クリニックにて当家の初孫が誕生いたしました。性別は男で、予定日より二週間早い誕生でしたが、誕生時の体重は3,805グラムと大きく関係者を驚かせました。



↑ 初孫「哲道」

命名は「哲道（てつどう）」哲学的な思考ができる人間になって欲しいという意味合いを込めて、副住職が名付けました。

母子共に健康であり、当寺には一ヶ月検診が終了した後の9月初旬に帰って参りました。現在は副住職夫妻と共に、副住職が住職を務める龍源寺（吉井町大字多胡）にて、すくすくと育てております。

まだ生後三ヶ月ほどですが、その成長ぶりには毎日驚かされ

ております。

檀信徒の皆様はじめ縁のある方々に温かく見守って頂き、ご指導ご鞭撻を賜りたく存じます。

しんぼんきふ しょうかい

## 平成16年度新盆寄附の紹介

平成16年度の新盆の寄附金で、本堂東側の畳替えを行わせていただきました。新しい畳は緑鮮やかであり、本堂も一新いたしました。また、九曜紋の寺紋入の羽二重袈裟も併せて購入させていただきました。ここにご報告申し上げます、改めて厚く御礼を申し上げます。



↑ 畳替えを行った本堂東側

## 行雲流水（編集後記）

編集人 副住職 渡辺龍道

仁叟寺報『山雲水月』秋号をお届けいたしました。今号で通算11号目を迎えます。寺報について、忌憚のないご意見ご要望などをお待ちしております。

また、正月一月一日の元旦から三日に掛けての三が日には恒例の年賀受があります。一年の初めに当たり、当寺のご本尊様にご挨拶をして頂きたいと思っております。

さて、私事ながら恐縮ですが、上記記事中にも

あるように長男哲道が誕生いたしました。その際に、縁のある方々に誕生祝を多数頂戴いたしました。ほか、家内の実家、佐藤家におかれましても、里帰り中は色々ご迷惑をお掛けいたしました。改めまして、皆様に心から厚く御礼を申し上げます次第です。

